

保育者養成校における実務家教員の担う役割



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 准教授

松田 聖子 Matsuda Shoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 実務家教員・保育者養成



研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

本研究では全国の指定保育士養成校を対象にアンケート調査を実施し、保育者養成校における実務家教員の実態を明らかにすることを目的とした。514 校に調査を依頼し、103 校から回答を得た（回答率 21%）。回答校の内訳は、4 年制大学と短期大学がほぼ半数ずつであり、専門学校からの回答は少数にとどまった。専任教員に占める実務家教員の人数は 1 名から 10 名以上と幅があり、年齢構成は 50 代、60 代が多く、次いで 40 代であった。保育者としての実務経験年数は 5～9 年が最も多く、次いで 20～29 年、15～19 年となり、養成校教員として一定程度の現場経験が求められている実態がうかがえた。

業務遂行上の困難については、研究活動において「困っている」と回答した割合が 40%を超えた。一方で、授業や学生指導、保護者対応については、「問題はない」とする回答が 6 割以上を占め、実務家教員がこれまで培ってきた現場経験が、養成校教育において有効に生かされていることが示された。実務と研究という性質の異なる業務を並行して担うことの難しさとともに、実務家教員ならではの強みも浮かび上がる結果であった。

今後は、本調査を基礎資料として、実務家教員個々のキャリア形成や、養成校が実務家教員に期待する役割について、質的調査も含めた検討を進めていきたい。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

実務家教員の存在は実学へ直結すると考えられる。実務家教員がその力を発揮し、強みを活かす環境とはどのようなものであるか明らかにしていきたい。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

本研究は 2024 年度 日本保育者養成教育学会の助成を受けて実施した。